



毎週日曜日に仲間とテニスで汗を流す



フジコン会長 大島 要二氏

今でも現役、毎週のテニス

今年で80歳になるが、今でもテニスを毎週日曜日に行っている。昔からのテニス仲間グループをつくっており、そのうち約10人が実動部隊として参加している。場所は品川プリンスホテルの屋内コートだ。ダブルスの試合形式で3時間、汗を流

している。グループには80代が少なくないので私の中堅くらいであり、「もうちよっと苦労してこい」と言われるほどだ。腕前も同じく真ん中くらいだろう。

1983年にテニスクラブ「多摩川園ラケットクラブ」に入会したが始まりだった。そこには国や経済界を代表する人たちがごろごろおり、例えば石原慎太郎夫妻やソ

ニーを創業した盛田ファミリーが名を連ねていた。石原氏とは時々一緒にしたが、大変な負けず嫌いで負けると嫌な顔をしていたのを覚えている。最盛期は約1300人もいた。日本を代表する人たちと接することができ、いろんな勉強をさせてもらった。ただ、そのクラブも少し前に閉園になってしまった。

当時、練習の順番待ちで仲良くなった人たちが結成したのが今のテニスクラブだ。その仲間はずれもともと55人いて、現在でも約40人が所属しているが、やはり一堂に会するのは難しい。

わがテニスクラブの名前は「W07（ダブル・オー・セブン）」だ。「WORST7」の略で、下手でなければ参加できなかったからだ。メンバーには（富士通元社長）秋草直之氏もおり、多摩川園ラケットクラブでの最終日も秋草夫妻とプレーした仲だ。

テニスを通じ、物事を長く続ける継続性を養えた。制御機器に用いる端子盤を製造する当社が16年4月で設立50周年を迎えられるのも、その継続性のおかげかもしれない。もちろん健康維持にもつながっている。また、テニス好きが高じて、山梨事業所（山梨県西桂町）の第2工場の屋上にテニスコートをつくった。社内にはテニス部もあり、テニスは普段なかなか難しい従業員との交流にうってつけの手段となる。

（東京都大田区久が原3の32の4）